

芸術と放射線

調べたい物を傷つけることなく、内部の微細な構造を観察できるというラジオグラフィーの方法は、芸術の分野でもその威力を発揮しています。

ミレーの「種まく人」はラジオグラフィーでその下に車輪が描かれていることがわかったそうですが、このように、名画の下に隠された絵の発見や、一部の書き換えが証明されて話題になったりしています。

古い仏像などでは、その胎内にいろいろなものが納められていることが発見されています。また、法隆寺の国宝、聖徳太子の座像は瞳の部分にコンタクトレンズのようにガラスが張り付けてあることがエックス線撮影で初めて明らかになりました。

こうした知識は、芸術作品の生まれたいろいろな背景や歴史的な変遷などを明らかにする重要な手がかりとなります。また、彫刻にエックス線CTを用いるとその微細な構造まで立体的に知ることができるというので仏像の修復などに利用されている例もあります。

